

生田緑地マネジメント会議ニュースレター

「生田緑地マネジメント会議」の内容をお知らせします。

平成30年度第3回運営会議が開催されました。

平成30年11月28日(水)18:00~20:00 生田緑地東口ビジターセンターにて第3回運営会議が開催されました。新しく「ミューラボ」が会員となりました。当日は仙台市の建設局百年の杜推進部公園課 青葉山公園整備室さんが見学をされました。

議事概要

- 1.承認事項
○ミューラボの入会について
- 2.協議事項
○出入口の名称について
○生田緑地の自然の保全・利用方針について
○生田緑地マネジメント会議パンフレット検討について
- 3.報告事項
○自然環境保全管理会議から
○みどりの企画管理課から
○おもてなしプロジェクトから
○みどりの保全整備課から
○自転車活用推進室から など

ミューラボ 江原代表



会議の様子

協議事項

出入口の名称について

現地調査の内容と前運営会議での報告を踏まえ、第4回運営会議で確認をし、全体会議で承認を得る案をプロジェクト会議が提案。

名称案を確認いただけていない団体があり、本年中の確認と全会員へのご意見を頂き、その第4回運営会議で協議し、川崎市への提言へつなげることとなりました。

生田緑地の出入口の自然の保全・利用方針について

生田緑地西遊園とバス専用駐車場を、ゴルフ場地区景観再生エリアに区分

東口駐輪場を中央地区・公園施設等利用エリアへ区分整備がすでに終わっている地域の報告であるため、今後は「生田緑地における改修・整備事業の調整方法の手引き」のフローを守っての計画進行を望む意見が出されました。

生田緑地マネジメント会議パンフレット検討

前回の運営会議でのグループワークの多くのアイデア・ご意見の中から一つに絞ることは大変難しくそれらをカテゴリー化した一覧資料を確認しての協議でした。

- ・紙媒体とインターネット上の情報とのリンクの考え方
- ・「協働のプラットフォーム」が伝わることを盛り込む
- ・市民の参加の入口となりうる要素を盛り込む
- ・「協働のプラットフォーム」=行動の方針・システムとは何なのかを整理しデザインすべき
- ・各団体間の連携をマネジメントできるシステムが必要
- ・各活動を尊重し、更に連携・マッチングをしていきたいという方針の打ち出しを行う
- ・活動に興味がある対象へのアプローチとして重要等の様々な意見が交わされました。作成の提案につきましては、継続し協議を行ってまいります。

報告事項

自然環境保全管理会議から

11月18日に「第3回自然会議勉強会」が多摩区役所の会議室をお借りして開催されました。立正大学の小松先生から水の流れや地形の話、磯谷会からは土石流の話を押聴しました。

奥の池の水質改善について、12月16日から2月末まで日干しを行う計画を発表。

みどりの企画管理課から

秋のばら苑の入場者総数は28732人との報告。

みどりの保全整備課から

7月27日に向ヶ丘遊園跡地についての事業計画推進の報告が小田急電鉄からリリースされ、川崎市はパブリックコメントとして発表される予定である。

跡地を有効に活用するために、あらためて町会をはじめお住まいの方と連携した取り組みを整理していきたい。電鉄とは定期的な意見を入れすり合わせを行っており今後の方針も近日発表の予定と報告。

本件に関しては、パブリックコメント以前にマネジメント会議として協議できる場の用意を望むこととなった。

自転車利活用推進室から

平成31年3月より2年間の予定で「シェアサイクル」の実証事件を導入。登戸駅半径1.5kmエリアとして観光や交通の改善を図る見込み。

ポートについての調査しっかり行うことや、マナー啓発も含め整理を行っていくべき等の意見が出されました。